

対象地区	期 日	会 場	参加者数
県北方部	42. 8. 1～3	保原町公民館	60
県南方部	42. 7. 22～24	古殿町公民館	55
浜 方部	42. 12. 25～27	いわき市常磐公民館	60
会津方部	42. 7. 29～31	喜多方市上三宮小学校	36
目的団体	42. 11. 11～13	県立積慶寮	30

(3) 講 師

福島大学教育学部教授	田口 考之
〃 〃 〃	徳田 安俊
福島県立会津高等学校校長	田中 平作
棚倉小学校教諭	菊地 理夫
福島市児童館長	羽田 善一
会津若松市教委事務局社会教育課長	渡部 宏
いわき市常磐公民館長	国井 一美
日赤福島支部	清野 美雄
ボーイスカウト隊長	菊地賢太郎
〃 〃	沖井 道雄
福島市教委事務局社会教育主事	笠原 憲昭
原町市 〃 〃 指導主事	吉田 重成
県教育庁社会教育課員、伊達・石川・耶麻・いわき事務所社会教育担当者	

(4) 参 加 者

子ども会等少年団体のジュニアリーダーおよび、ジュニアリーダーになろうとする者、少年団体指導者、育成会指導者

(5) 内 容

① 講 義

- ア. 「子ども会等少年団体活動の意義」
- イ. 「子どもの理解」
- ウ. 「運営とプログラム」
- エ. 「健康と安全指導」
- オ. 「指導者の任務と役割」

② 実 技

- ア. 野 外 活 動
- イ. レクリエーション
- ウ. キャンプファイア

(6) 効 果

地区によりジュニアリーダーの集まりが悪かったが、彼等が参加しやすい方法を考える必要があろう。どこも熱心な受講態度で指導者としての資質の練磨にはげみ、宿泊をとおしての相互の心のふれ合いは、有意義であった。ただ、参加者の年齢、経験、立場等に巾があり、講義や、演習を

行なうのに困難さがあった。教員の参加もかなり多く、今後の社会教育的活躍が期待される。また、B. S 県連講師の宿泊をとおしての指導は効果があった。できるだけ7、8月の休業中に開催し、ジュニアリーダーの参加しやすい日時、場所、安心してとまれる安価な宿泊所を準備すること、自由討議や、情報交換のできる時間をとることなどがのぞまれる。

4 青年国内研修

(1) 趣 旨

勤労青年に明るい希望をあたえ、はつらつとした郷土振興への活動を促進するため県下の青年を長野県、および県内の学校研究機関に派遣して、生活、文化、教育、産業に関する実施研修を行ない、もって郷土振興に資する知識技術の習得を助長し、明るい郷土建設と発展に資とする。

(2) 期 日 県内研修 42. 7. 18～7. 31

県外研修 42. 7. 20～7. 22 (事前研修)

8. 23～9. 14 (現地研修)

9. 15～9. 17 (事後研修)

(3) 派遣先および人員

① 県内研修 県農業試験場、県畜産試験場、会津農林高等学校 計31名

② 県外研修 長野県南佐久郡南牧村

小県郡 丸子町 計20名

(4) 参 加 対 象

将来郷土にあつて研修の成果を積極的に生かし得る青年学級生、青年団員および青年グループ員で25才未満の者

(5) 実施内容、方法

① 事前研修

- ア. 研修の意義と方法
- イ. 団体活動について (グループ学習)
- ウ. 本県青年教育の現状について
- エ. 研究主題の指導、研修方法

② 現地研修

- ア. 各研究機関の視察と研修
- イ. 社会教育関係団体との交歓研修
- ウ. 社会教育関係調査
- エ. 分宿農家実地研修

③ 事後研修

- ア. 研修課題の整理と研究発表
- イ. 反省会、事後活動

(5) 県外研修内容

	月 日	場所・宿泊地	日 程	研 修 内 容	備 考
猪苗代	7月20日	耶麻郡猪苗代町 国立磐梯青年の家	14.00集合	オリエンテーション 研修の意義および方法 団体活動 研究主題の決定	社会教育課員
	7月22日		事前研修日程表による 12.00解散		
福 島	3月23日	福島市県庁	14.00 県庁集合 14.30～15.00結団式 15.00～17.00 打ち合わせ	県外研修生結団式 出発前諸打ち合わせ	社会教育課員 県教育長、課長あいさつ
		長野県南佐久郡南牧村	7.40 福島発 11.45 上野着	福島発 車中 南牧村着	南牧村公民館宿泊